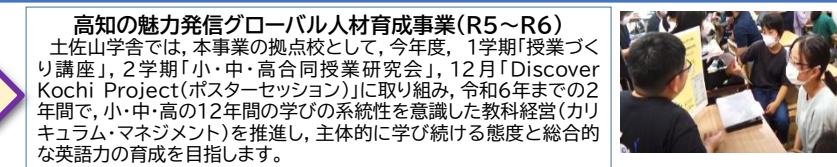


「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト 授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指しています。今年度は、高知市立義務教育学校土佐山学舎前期課程で行われた教材研究会と授業研究会の様子を紹介します。



領域「話すこと(発表)ーウ」第6学年 単元名 Let's go to the BAL Festival. ~BAL祭りの魅力を伝えよう~

単元目標 Point! 総合的な学習の時間等での児童の経験を生かした単元づくり

高知市立の交流校の小学生や先生に、BAL祭りに行ってみたいと思ってもらえるように、祭りについて伝えたいことを整理しながら自分の思いを発表することができる。

前期課程と後期課程の9年間におけるCAN-DORリスト形式による学習到達目標のつながり

- 第4学年: 自分の将来の夢について、人前で実物などを見せながら、簡単な単語や基本的な表現を用いて話すようにする。
- 第6学年: 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な単語や基本的な表現を用いて話すことができる。
- 第7学年: 自分のなりたい人物について、簡単な単語や文を用いて即興で話すことができる。
- 第8学年: 自分の将来像や夢について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な単語や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
- 第9学年: SDGsに関して、聞いたり読んだりしたことについて自分なりに考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な単語や文を用いて話すことができる。

単元ゴールの目指す表現例(b基準)

(写真やイラストを用いた発表用スライドを使って)
BAL Festival is a nice festival in Tosayama. It's in October. You can eat square bamboo sushi. Do you know square bamboo? This is square bamboo. (Show the picture.) Do you like sushi? Please try square bamboo sushi. You can drink yuzu juice. It's sweet and sour. Do you like juice? Please try yuzu juice. Let's go to the BAL Festival.

教材研究会での協議の視点

- 育てたい児童の姿に向けた指導の視点は適切か
 - 本時(単元)の中間指導の方法は、目標を達成するために適切か
- 【育てたい児童の姿】
- <話し手>
- 相手の基本情報や魅力を伝えている
 - 相手が分かりやすいように話す順番を工夫している
 - 相手に問いかけをしている
 - 相手意識をもって話している
- <聞き手>
- 発表を聞いて、伝える内容が深まる質問をしている

協議内容から

- 相手意識をどう高めていこうかが大事
- 聞き手が質問できるような仕掛けを行っていきとよい

授業研究会に向けて

- 相手意識をもたせる①(協力校とのオンライン授業)
- 相手意識をもたせる②(新任のA/B/C先生に)
- 表現を正しく使わせる(ペアのリキャスト、中間指導)

講師講話(教材研究会)

- 相手意識をもたせるため
 - 話す題材を変える
 - 話す相手を替える 直山 木綿子 視学官
 - 表現を正しく使っているかどうかの指導が必要
 - 中間指導では、内容面の指導に加えて、折をみて、「これは正しく使ってほしい!」という表現において、児童の間違ひが多く見られる場合には、その間違ひをきちんと修正する指導が必要。
 - 文構造の指導は、中学校に上がるまでにしっかり行う。
- 協議、講話内容を踏まえて授業研究会に向けて単元構想を再検討(下線部)しました。

単元構想 Point! 相手意識をもたせためあての設定

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時(本時)	第7時	第8時
目標	単元の目標を理解し、行きたい国やその理由について話すことができる。	行きたい国やその詳しい理由について話すことができる。	相手に自分が行きたい国に一纏に行ってもらえるように、伝えたい内容を整理して話すことができる。	新しく着任したA先生(BAL祭りのこと)を知っている他の土佐山の祭りについて知らないこと、土佐山について知っていること、土佐山の祭りに参加することや自分の気持ちなどを話すことができる。	新しく着任したB先生(BAL祭りのこと)を知らない他の学年の担任に、土佐山について知っていること、土佐山の祭りに参加することや自分の気持ちなどを話すことができる。	新しく着任したもう一人のALTにBAL祭りに行ってみようと思ってもらえるように、祭りについて伝えたいことを整理しながら自分の思いを発表することができる。	高知市立の交流校の先生や児童に、BAL祭りに行ってみようと思ってもらえるように、祭りについて伝えたいことを整理しながら自分の思いを発表することができる。	高知市立の交流校の先生や児童に、BAL祭りに行ってみようと思ってもらえるように、祭りについて伝えたいことを整理しながら自分の思いを発表することができる。

授業研究会 6/8時間目 <協議の視点> 中間指導の内容及び方法は、本時の目標を達成するために有効であったか

本時の目標 新しく来たALTの先生のように、土佐山のことをよく知らない人に、BAL祭りに行ってみたいと思ってもらえるように、自分の思いを発表することができる。 児童に示す目標: Bobbi先生のように土佐山のことをよく知らない人にも、BAL祭りの魅力について伝えることができる。

展開	導入	展開	まとめ
① 新しいALTが話す内容から、BAL祭りでおすすみたいこと(もの)について考える。	② 本時のめあてを共有する。	③ 前時(第5時)のGood Model動画を視聴する。	④ めあてを確認する。
⑤ ペアになり、一人が発表し、もう一人が質問をする。	⑥ 一人がBobbi先生に発表した後、クラスで質問内容の共有をする。	⑦ ⑥でのやり取りや中間指導の内容をもとに発表内容を再構築し、再度⑤の活動をする。	⑧ 再度、めあてを確認し、参加者に発表する。
⑨ 発表内容を、タブレットに録音し、提出する。	⑩ 振り返り		

中間指導 Point! ALTの活用により、中間指導そのものが言語活動になる。内容面に加えて、正しく表現することについての指導もする

◆言語面の指導◆

ALT: (黒板に貼った5枚の単語カードで示された "You can eat is daifuku.")の英文を指す)
"You can eat is daifuku."
Is this OK?
It's very close. I understand.
It's close ...

児童1: "is" bye-bye.
ALT: Yes! "is" bye-bye. I know! (isカードを黒板から外す)
I understand, but... (黒板の "You can eat daifuku.")の文を指す)
Nice and clean.
"You can eat daifuku."
(黒板にゴミ箱の絵を描き、isカードをゴミ箱に入れる)
"is" bye-bye.
OK, so let's do this one more time, 1, 2.

児童2: "My favorite is bingo."
ALT: It's fun.
Oh! ("is fun"の "is" をゴミ箱に入れ、"fun"の前に "It's" を書き足す。)

Point! 文構造を可視化して指導

ALT: Great! How about this one, "My favorite is bingo is fun" .?"
I understand.
児童1: "is" bye-bye.
ALT: (他の児童の発言を待つ)
You can do...here's an idea. (黒板の "My favorite is bingo is fun" を指しながら)
It's very long. Let's cut it. Where can we cut?
クラス: My... favorite... is...bingo...
JTE: Cut!
ALT: (黒板の "is fun" を引き離し、"My favorite is bingo" の最後にポリオドを書く)
児童2: "My favorite is bingo."
ALT: It's fun.
Oh! ("is fun"の "is" をゴミ箱に入れ、"fun"の前に "It's" を書き足す。)

本単元の言語材料(can)を使いながら児童に問いかけている。

(上)1文に "is" が2つ使われていることについて児童に問いかけるKaili先生。(下)不要な "is" をゴミ箱イラストに入れている。

講師講話(授業研究会) 文部科学省初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 先生

- 英語はグローバル社会で生き残るためのツール
変化が多く、不確定な状況で、人、もの、お金、情報が国境を越えて行き交うようになった。このような時代に生き残り、自分の命を守るためには英語は必須。
- CAN-DORリスト形式による学習達成目標について
「作成(学習達成目標を把握する)」、「公表(児童生徒に目標を伝えること)」

- 言語面の中間指導
ALTは、学校の英文をある程度知っているの strange English でも通じるが、「初めての人に分かってもらうためには、表現を正しく使わないと伝わらない」
大人は正しい表現を知っているの、子どもたちの間違いに気付くが、子どもたちにも間違いに気付かせるのは難しい。
聞いただけではあやふや。文の形をきちんと可視化することが大切。
- 授業者より
相手意識をもたせる指導については、使用する表現は変えずに単元の中で題材を変えたり、紹介する相手を替えたりすることで、児童が相手によって言葉を変える必要があることに気付かせることができると分かった。文構造に気付かせるための指導の工夫について学ぶことができた。